



扉 ちっぽけな心

サトータツオ 1



まなぶということ

西澤 清 2



詩 パラ色の闇

地引 浩 4



特集

いらないもの 不要なこと

歪んだ「効率化」はムダの典型

伊藤 修 6

科学の発展とムダ

池内 了 9

巨額な防衛費こそムダである

野中章弘 12

このままでは日本の金融業界は

北村 巖 15

ムダな存在になるかも

藤田研一 19

デジタル化は避けられない？

斉藤小百合 23

戸籍つて、必要？

瀬山紀子・白井久実子 26

知っていますか？ 「障害者欠格条項」

清水俊弘 29

クラスター爆弾も対人地雷もいらない

大野和興 33

小さい百姓には農協は大事です

北川鑑一 36

憲法 5

「自由」の行きつく先は生存権の侵害

関口達矢 52

日本のうしろ 世界のうしろ

ユニオンから見える労働運動の課題

丸山重威 52

忘れてはならないこの国の政治と力ネ

石川和雅

ミヤンマー 軍による民主化のゆくえ

濱本凌汰 63

職場の法律相談

うつ病で退職強要されました… 濱本凌汰 63

◆ キャラバンサライ

40

◆ スポーツ時評

42

◆ メルボルン便り

44

◆ 数字を疑え

46

◆ 中国観看

48

◆ 古典への招待

50

◆ 北から南から

66

◆ センターとみなさんをつなぐ

68

カット＝野崎安希子

まなぶということ

中立アジアと連帯し、停戦実現の行動を

西澤 清

米露の代理戦争であるウクライナ戦争が始まって2カ月が過ぎました。武力・経済・情報戦争が展開され、日本はNATO側で経済制裁に参戦しています。ウクライナ上空には、両軍のミサイル・砲弾が飛び交い、市街戦が行われ、多数の戦争犠牲者や破壊された街が連日報道されています。

私たち日本人は今の報道の惨状を、わずか70年ほど前に経験しました。

太平洋戦争末期、1945年3月10日夜間、300機のB-29米軍戦略重撃機が東京の空を覆いつくし、絨毯爆撃を行いました。1万mの高度から7mあたり1発の5kg焼夷弾（ナパーム弾）を落下・空襲したのです。罹災者は100万人で、死者・行方不明者は10万3千人でした。その後、沖縄では陸上戦で県民4人に1人が殺され、8月には広島・長崎に原子爆弾が落とさ

れ、10数万人が殺されました。

こうした悲惨な戦争の経験から、私たちは「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないようにすることを決意」して、憲法9条を定め、日本国憲法を最高法規とした国家運営を行うための日本政府をつくりました。

日本はアジアの一員です。それが孤立してNATO側に立っています。中立の立場に立ち返り、中国、インドなどアジア諸国を取りまとめ、武器供与をつづける「影の主役」アメリカに、停戦交渉の実施を求めるべきです。

いま、「台湾有事」に言及する報道が多くなり、アメリカは台湾に戦闘機やミサイルを持ち込み、「あいまい戦略」を見直そうとしています。自衛隊は沖縄で実戦を想定した軍事訓練を行っています。次はアジアといわれているのです。

戦争は犯罪で政治の失敗の結果です。戦争が始まった途端、政治は失われます。いまが大切です。直ちに行動することが日本が国民を犠牲にしない唯一の道で、日本が「国際社会において、名誉ある地位を占め」ることです。

（日教組元副委員長）